

■鴻巣市地域公共交通計画 基本理念（案）の整理表

カテゴリー		市全般、地域公共交通の現状・環境変化	利用者のニーズ（要望） （市民・利用者アンケート等）	事業者の抱える課題・意向等 （交通事業者・関連事業者）	社会潮流	基本理念 （案）
地域特性		【強み】 ・各駅周辺およびバス路線エリアに人口が集中 【弱み】 ・高齢化率は市全体で 31.2%と国(29.4%)と県(27.0%)と比較しても高い ・年少人口（15 歳未満）は減少する一方、老年人口（65 歳以上）は増加傾向	・公共交通全般において、「運賃を引き上げ、財政負担の抑制に取り組むとともに運行時間帯やルート、利用方法を改善し利便性向上を図るべき」との回答が多い ・日常生活における移動は、自家用車に依存しており、代替手段は家族送迎など公共交通の利用は限定的 ・デマンド交通や割引制度を知らない人が多い	・通院需要が午前中に集中 ・従業員不足	地域公共交通のアップデート 立地適正化計画との連動 要モニタリング地区への対応 デジタル技術の活用 脱炭素化	暮らしを支え、誰もが使いやすい持続可能な公共交通体系の確保
インフラ環境		【強み】 ・JR 高崎線 3 駅（鴻巣、北鴻巣、吹上）を中心に交通網が形成 ・国道 17 号を軸に広域道路網が形成、上尾道路開業もあり広域の利便性がに期待 ・道の駅こうのす（R10 開業）による人口流動の変化が予想される	・道の駅こうのすへの「フラワー号」接続要望が多い ・キャッシュレス化や EV 車両の導入を求める声が多く、交通 DX・GX に対する期待が大きい	・道の駅こうのす開業及び上尾道路開通による交通量変化、宅地開発による運行ルート再編の検討 ・国道 17 号及び一部県道での渋滞		
バス交通 ネットワーク	民間	・利用者減少と担い手不足により事業継続が課題	・路線バスの利用頻度は週 3 回以下の回答が大半である	・乗務員不足、運転手の高齢化 ・人件費、燃料費の高騰による事業継続懸念 ・利用者数の減少（特に学生の利用が減少）		
	行政	・「フラワー号」が 8 コースで運行 ・総利用者数は増加傾向で、市民の移動手段として定着している一方で、コースにより利用状況に差がある ・高齢者（運賃無料者）の利用が多い ・運行経費や市補助金は増加傾向	・「フラワー号」の充実を望む声が多い ・利用目的は他交通機関への乗継、買物、通院が多い ・運賃、バス停留所までの距離と行先の満足度が高い ・運行本数、運行時間の満足度が低い ・運転免許自主返納による公共交通の割引制度の認知度が低い	・職員不足 ・一部コースの利用者減少 ・車両の高年式化による修繕費の増加 ・通院需要に合わせたルートの再編 ・利用者数の増加に対して運賃収入が伸び悩んでいる ・運賃の値上げ等改定 ・日・祝の運休希望あり		
タクシー交通 ・ デマンド交通	民間	・デマンド交通導入により一般タクシーの利用者数が減少したが、タクシー未利用層が掘り起こされている	・1 年以上未利用、使ったことない人が 9 割	・運転手不足 ・配車アプリの導入検討 ・アプリでの一般タクシー配車と電話でのひなちゃんタクシー配車指示時の調整が必要		
	行政	・定時定路線型以外の交通空白地域への対応 ・送迎に頼らない移動手段の確保 ・通院目的かつ高齢者の利用が多い ・デマンド交通を知らない人が多い ・このす乗合タクシー →朝の時間の予約が取りづらい →AI によるルート検索の妥当性の検証が必要 ・ひなちゃんタクシー →登録のみにとどまっている人が多い →財政上の行政負担が大きい	・このす乗合タクシー →運賃の満足度が高い →運行時間帯の満足度が低い →総合的な満足度が比較的高く、今後の利用も見込める →他の方との乗合を好まない方も一定数いる ・ひなちゃんタクシー →利用しやすさの満足度が高い →運行時間の満足度が低い	予約運行システムの変更検討余地あり ・このす乗合タクシー →予約の取りづらさから 1 ～ 2 台の増車検討 ・ひなちゃんタクシー →利用回数制限（月 8 回）が定着しつつも、回数制限を超えての利用も見られる		
他分野連携 【医療・教育・商業・観光】		【強み】 ・民間施設による個別送迎サービスの実施 ・通院や買い物など日常生活を支える移動需要が大きい 【弱み】 ・観光やイベント時の移動需要・課題の発生 →道路渋滞、運行本数、運行時間		・各施設が連携した送迎体系の希望 ・スクールバスの送迎時の混乗は難しい ・イベント開催時の「フラワー号」臨時運行希望		